



九州ルーテル学院大学

人文学部心理臨床学科

久崎孝浩 (ひさざき たかひろ)

所在地：熊本県熊本市黒髪 3-12-16

<http://www.klc.ac.jp/>

Profile — 久崎孝浩

九州ルーテル学院大学人文学部心理臨床学科講師。専門は発達心理学、感情心理学。主な著書は、『社会化の心理学／ハンドブック：人間形成への多様な接近』（分執執筆、川島書店）。最近は、山登りの心理学的アプローチもめざしています。



九州ルーテル学院大学は熊本市内にある小さな大学で、熊本大学のすぐそばにあります。本学は、「人文学部」の一学部「心理臨床学科」と「人文学科」、そして発達障害と心理臨床のさらなる深い理解のための「大学院人文学研究科（障害心理学専攻）」を配しています。ここではとくに、心理学にかかわる心理臨床学科と人文学研究科の紹介をします。

心理臨床学科は7年前に、大学院人文学研究科は5年前に新しく開設されました。学科はさらに「心理学コース」、「障害臨床学コース」、「精神保健福祉学コース」に分かれています。今年度から小学校教諭一種免許状も取得可能になり、それぞれのコースで学生は、精神保健福祉士、幼稚園教諭一種免許、中学・高校教諭一種免許、特別支援学校教諭一種免許、認定

心理士などの取得をめざしています。また、4年間の学びを通して芽生えた関心・疑問をもとに、自らの将来や学術的・社会的貢献につながるような卒業研究に取り組んでいます。

そして、大学院人文学研究科ではさらに学科の科目を発展させて、発達障害や情動・パーソナリティに問題をもつ子どもや成人に対するアセスメント・予防・支援・研究のスキル向上のための科目が配備されており、院生の皆さんは実りある現場での臨床・研究活動をめざしています。そのうえで、特別支援学校教諭専修免許や臨床発達心理士資格の取得をめざしています。

どのように科目をとればいい？

とくに学部の心理臨床学科では、下のようなポリシーを掲げて

科目を構成しています。具体的には、まず1年次では概論的科目や必修科目が配置されていて、コース分化して科目を履修していくようになるのは2年次からです。

2年次、心理学コースでは、研究方法にかかわる「心理学実験・実習」、臨床にかかわる「人格心理学」などがはじまります。障害臨床学コースでは、発達障害に関連した「発達アセスメント」、障害児・者教育にかかわる「肢体不自由教育総論」などがはじまります。そして、精神保健福祉学コースでは、福祉精神にかかわる「公的扶助論」、より実学的な「精神科リハビリテーション学」などがはじまります。ただし、2年次では履修科目の選択の仕方はまだ特定のコースに則したものでなくてもよく、学生任意であり、学生は科目履修を通して自分の特性に合ったコースを見極めていきます。

そして3年次になると、履修科目は本格的にコース分化し、心理学コースでは、心のメカニズムの科学的探究に深くかかわる「生理心理学」、心の問題に深くアプローチする「精神分析学」などを履修していきます。障害臨床学コースでは、各種障害に対する特別支援教育にかかわる「総論」などを履修します。さらに精神保健福祉学コースでは、現場に必要なケアやサービスのあり方について学ぶ「精神保健福祉援助技術総論」といった精神保健福祉士受験に必要な科目を履修していきます。

心理臨床学科カリキュラムポリシー

心理臨床学科では、1、2年次から心理学や諸関連科学の基礎的で幅広い知識を養い、3年次から心理学・障害臨床学・精神保健福祉学の三つのコースのいずれかのコースを中心に学習できるようカリキュラムを構成しています。以下に掲げるような点を重視し、豊かな知性と視野、人間味あふれるコミュニケーション能力と对人的配慮を有した人材育成をめざします。

1. 知識と体験

本学科では、講義科目で各専門領域の最新の「知識」を幅広く得るとともに、ボランティア体験・心理学実験・臨床教育実践体験を目的とする演習・実習科目によって講義で得られた知識を「体験」として学ぶことができるよう科目が配備されています。

2. 主体性と判断力・計画実行力

本学科では、2年次後期から4年次にかけて少人数教育に基づいたゼミ活動を必修化し、担当教員の専門性と人固性に触れながら卒業研究に取り組むことで、自ら問題を設定しその解決をはかるといふ「主体性」とその解決を通じて得られる確かな「判断力」「計画実行力」を培います。

3. 自己・他者理解とコミュニケーション能力

本学科では、こうした一連の教育・研究活動を通じて学生個々が「自己・他者理解」を深めることで、現代の社会や企業で求められる効果的な「コミュニケーション能力」、あるいは、より専門的に心理臨床現場で求められる対人援助能力・内省能力を十全に備えた人材となるよう育成します。

最後の4年次になると、学生は全員「卒業研究」に取り組むとともに、とくに幼稚園教諭免許、中学・高校教諭免許、特別支援学校教諭免許の取得をめざす学生は「教育実習」、精神保健福祉士国家資格の取得をめざす学生は「援助実習」を通して、子どもたちが適切に学ぶ環境は何か、精神障害をもつ人たちが生きがいをもって生活する環境とは何か、またその環境の一部を担う教師や福祉士はどのような働きをすべきか、という疑問に（大学教員のサポートを受けながら）自ら答えを出していきます。

ドキドキ・ワクワク「ゼミ」選び

心理臨床学科では9名の教員（<http://www.klc.ac.jp/profile/staff.html> 参照）が卒業研究のための「ゼミ」を担っています。3年次の前期終了時に学生はゼミ希望理由届を出すのですが、それは学生にとっておそらくドキドキものかもしれません。ゼミでは、学生は教員それぞれの専門性とそこにみえる人間味に深く関わることになり、人 vs 人 または 師 vs 弟の関係を築くことは学生にとって自分の将来や方向性に大きくかかわってくるという意味ではワクワクするも



あるゼミの風景

のでもあるでしょう。それは、学生が提出したゼミ希望理由届を見る教員も実は同じです。

卒業後はどう進む？

昨今の大学生の就職難は、皆さんもよく耳にしていると思います。心理臨床学科では、幼・中・高校教員（小学校教諭免許は2011年度からスタートしたので取得者はいません）、特別支援学校教員、精神保健福祉士として病院・施設勤務といった専門的な仕事に就くほか、一般企業への就職や大学院進学も多く、それぞれに各コースの学びを活かしています。学生は郷土への思いが強いので熊本県内への就職が多いですが、進路先は県内外を問わず、実質的には、学びを通して得た“こころざし”（就職率・合格率ではなく）によって決まっていくものと思います。

学生生活に何を見出せばいい？

学生は圧倒的に熊本県出身者が多いですが、県外からも来ては多いです。県外の方にアピールするのなら、まずそれは（学内活動だけでなく）熊本のもつ自然の豊かさです。とくに大学のある熊本市は、西に天草、東に阿蘇の山々が待ち構える、食とレジャーを楽しめる絶好の拠点です。食なら魚介・馬肉から地野菜、レジャーならドライブ・ツーリング、釣り、温泉、乗馬、山登りまで幅広く楽しみ、気分転換にはもってこいです。

そのような気分転換をはかりながらも、大学での生活に何を見出して頑張っていけばよいのか、それはどの大学に入学しても学生が突き当たるところかもしれません。アルバイトに精を出して自活する、サークル活動を通じて心身を磨きつつ友人との関係を深め



ダウン症支援部の療育活動風景

る、そうしたことは大学の授業では得られない大切なことです。

ただ、心理学やそれが深くかわる教育・福祉学を学びにきたのであれば、本学の充実したボランティア活動を見逃すわけにはいきません。本学科では、不登校の子どもや引きこもり状態にある人への支援を中心としたボランティア活動が、教員の研究フィールドとリンクした形で展開されています。また、障害をもつ子どもへの支援ボランティア活動、具体的には、ダウン症や自閉症の子どもたちの療育活動に携わったり、大学近隣の園や学校で軽度の障害をもった子どもたちの学習や生活をボランティアで支援したりするといった活動がサークル単位で行われています。さらには、PSW 同好会という精神保健福祉士や精神障害に関心のある学生が営む同好会もあり、精神科病院のデイケアやバザーなどのイベントにボランティアとして活動する学生もいます。こうした活動は必ず自分の生き方に何かの示唆を与えるはずで

まずは、理論と実践を兼ね備えた小さき大学・学科のホームページをのぞいてみてください。